

# 全国市街地の変遷

## 昭和の記憶から次代へ

### 北アルプスの玄関口

大町市は、長野県北西部に位置する人口約2・8万人の都市で、市西部には3000級級の山々が連なる北アルプスが広がり、立山黒部アルペンルートの長野県側の玄関口としても知られている。日本海に面する糸魚川と松本とを結ぶ糸魚川街道(古くは千国街道、塩の道)の中間地に在り、近隣から産出された麻類や、日本海から運ばれる海産物、塩などの物資が

集積する商業都市として栄えてきた。

昭和初期に、昭和アルミニウム工業所(現昭和電工)が工場を移動。日本で最初のアルミニウム生産に成功すると、大町市は「アルミニウム発祥の地」と呼ばれるようになった。1936年には大町紡績(現東洋紡績)が工場を建設して操業。多いときには3000人の従業員が働いて

いた。大町は昭和電工と東洋紡績の「二大企業城下町」として発展、工業都市としての地位を築いていく。

64年に黒部ダムが観光地として開放されたのに続き、70年には立山黒部アルペンルートが全面開通。大町温泉郷や木崎湖温泉郷が誕生するなど観光資源も増え観光地としての知名度も上昇。大町市は工業都市、観光都市として発展を遂げてきた。

しかし、73年のオイルショック、85年の円高不況を受けて昭和電工は規模を縮小。東洋紡績も99年に工場を閉鎖した。一方でこれまでに、半導



客足が遠のいた信濃大町駅前商店街



大町温泉郷の黒部観光ホテル

## アクセス改善で工業、観光への期待

# 新たな需要掘り起こしへ

体を製造するニチコンやポトルウォーターを製造するアルプスウォーターなどの新規工場稼働も見られるが、ICが立地する安曇野市など近隣自治体に比べると高速道路アクセスの点で見劣りするなど、企業の進出は限

に歯止めがかからない状況が続いている。

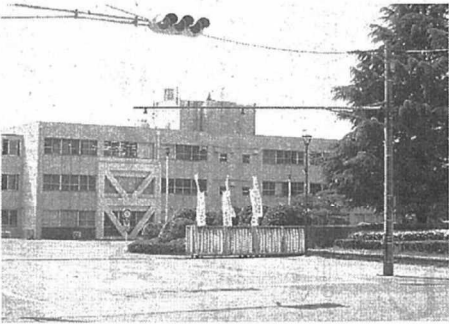
### 駅前商店街は空洞化

1960年に4・1万人超だった人口は現在、3万人を割り込んでいる。更に郊外や近隣自治体に大型商業施設が出店したことで、古くから栄えてきた信濃大町駅前を中心に商業地からは客足が遠のき、事業主の高齢化や後継者不足なども相まって旧来の商店街も空洞化が進んでいる。

また、今年7月30日に閉幕した第1回北アルプス国際芸術祭では予想を大きく上回る延べ40万人が訪れ、新たな観光需要も生まれつつある。糸道路の開通時期は未定だが、大町市が今後どのような取り組みを行って、需要を掘り起こして復活していくのか注目していきたい。

(日本不動産研究所松本支所、不動産鑑定士・郷間智史)

## 長野県大町市・整備事業再開される糸魚道路



⑤現在の昭和電工 ⑥東洋紡績の跡地にできた「ふれすぽ大町」



また、今年7月30日に閉幕した第1回北アルプス国際芸術祭では予想を大きく上回る延べ40万人が訪れ、新たな観光需要も生まれつつある。糸道路の開通時期は未定だが、大町市が今後どのような取り組みを行って、需要を掘り起こして復活していくのか注目していきたい。